

コリント人への手紙一 の概要

今日はコリント人への手紙第一の書の連続説教を始めて行きます。

次週、私はCCCYで説教をします。代わりに、YIBCにはパトリック牧師がCCCYからいらして説教をされます。その次の週、私たちは最初の数節を実際に特別に見て行きます。今日はこの書全体の概要と聖書の中のこの書の背景のいくつかを初めに見て行きたいと思います。まず祈りましょう。そして神の御言葉に保存されたこのユニークな書簡を見てみましょう。

最初にこの書の背景について、話しましょう。第一コリントの作者は使徒パウロです。彼が教会を開拓する時、あるいは建て上げる時に関係したいろいろな教会に宛てて書いた多くの書簡のうちの一つです。パウロは実際、新約聖書の書のほとんど、少なくとも13書、明確ではありませんが、もしヘブル人への手紙も彼が書いたとすれば、14の書を書いたこととなります。パウロは彼自身の背景をピリピ人への手紙の書でこのように述べています。 **ピリピ人への手紙 3章5~6節 5. 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、6. その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。**

パウロは彼の若かりし頃、ユダヤ人であるだけでなく、非常に宗教的で律法の遵守の理解と神に従う事に熱心でした。パリサイ人は旧約聖書の律法を間違いなく完全に従う事に特に注意を払っていました。イエスは彼らを神への真の愛と彼らの行いと他の人たちへの愛によって神に栄光を帰すのではなく、律法主義から人の作った規則に従うことを中心とした偽の礼拝を多くの場合している事を非難されました。まさにパウロはそんな人でした。彼はイエスがこの地上に居られた時、決してイエスの弟子ではありませんでした。実際、使徒の働き7章の書で、パウロは最初のクリスチャン殉教者、ステパノと言う名の初代教会の霊と知恵に満ちた選ばれた7人の執事の一人、の殺害を指揮しました。気づいて頂きたいのは、ここでは、パウロは彼のヘブル語の名前サウロとしてこの使徒の働き7章の記述では書かれていることです。 **使徒の働き 7章58~59節**

58. そして彼を町の外に追い出して、石を投げつけた。証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。

59. こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで言った。「主イエスよ、私の霊をお受けください。」

これらの行為で実際に神に従っていると思い込み、クリスチャンの殺害に加担したこの男は、なぜか教会に宛ててどのようにイエス・キリストに従うべきか教える書簡を書く人になります。神はこの独善的なユダヤ教指導者を真の神の信奉者だけではなく、イエスの使徒として変貌を遂げさせます。使徒となるにはイエスと直接会うことが必要であり、使徒の働き9章にあるパウロの人生を変えた主との遭遇の詳述がまさにそれです。 **使徒の働き 9章3~5節 3. ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。4. 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」5. 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。**

その出会いから、パウロの人生は変わりました。独善的行動や、今まで彼を夢中にさせていた全てを彼は今、塵芥であると言っています。 **ピリピ人への手紙 3章8節 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とと思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、その当時、書簡の作者を紹介する慣例に沿って、パウロは正当に彼自身をイエスの使徒と第一コリントの冒頭で言及しています。 **コリント人への手紙 第一 1章1節 神のみこころによりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、****

しかし、使徒パウロと言うこの作者を作り上げている他のいくつかの興味深い項目があります。一つ目に、彼はユダヤ人ですが、ローマの市民でもありました。使徒の働き22章では、福音を説いたため、パウロは縛られて、今にも鞭打たれようとした時、彼は兵士に質問した。 **使徒の働き 22章25節 彼らがむちで打とうとしてパウロの手足を広げたとき、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかかわらずに、むちで打ってよいのですか。」**

これは一大事であり、彼がローマ市民の権利を有していたので、鞭打ちは止められました。兵士はそのことを刑罰を命令した上官に報告しました。上官はパウロに27節で聞きました。 **使徒の働き 22章27~28節 27. そこで、千人隊長はパウロのところに来て言った。「私に言いなさい。あなたはローマ市民なのか。」**パウロは「そうです」と答えた。 ”

28. すると千人隊長は言った。「私は多額の金でこの市民権を手に入れたのだ。」パウロは言った。「私は生まれながらの市民です。」

パウロはその当時世界を統治し、おそらくいまだかつて支配した中で最も有力な文明であろうローマ帝国の生粋の市民でした。それは、彼をこの時代、社会の頂点に据えました。加えて、パリサイ人として、厳格なユダヤ人の慣習の中で最高の教育を与えられていました。**使徒の働き 22章3節「私は、キリキアのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しく教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。」**

パウロは非ユダヤ、異邦人の都市タルソに生まれましたが、彼はエルサレムで有名な律法学者のガマリエルの学校で教育を受けました。彼は間違いなくヘブライ語、アラム語、ギリシャ語を話し、ローマ市民としてラテン語も多少は話せたのではないのでしょうか。彼の新約聖書の文章はとても洗練されており、漁師として働き彼と同様の学歴のない使徒ヨハネや使徒ペテロと比べると高学歴を示しています。この書簡の作者として、パウロに加えてもう一人の人が第一コリント1章の第1節に記載されています。**神のみこころによりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、**私たちはソステネについてほとんど何も知りません。彼はパウロの筆記者、彼が口述した事を筆記した人かもしれません。それとも、ただ一緒に旅した人だったかもしれません。彼は使徒の働き18章17節で、地元の統治者がパウロを収監しなかった事に失望した群衆がコリントで殴りつけた人が同じソステネである可能性があります。**使徒の働き 18章17節** **そこで皆は会堂司ソステネを捕らえ、法廷の前で打ちたたいた。ガリオは、そのようなことは少しも気にしなかった。**

ソステネはその出身であり、その教会の人たちは彼のことを知っていました。コリントを離れてパウロと共に旅していたかもしれませんが、このパウロからの書簡でソステネからの挨拶も送ったのです。ここで簡単にパウロがこの手紙をエフェソの街からコリントの教会に書いている状況を見てみたいと思います。パウロはコリントのこの教会から問題の報告を受けた時、彼はエフェソで教会を開拓し始めてもうすでに約2年経過していました。この教会と彼の関係から、パウロは大きな懸念を抱きました。パウロは元々この教会を彼の第二回目の宣教旅行時に開拓しました。パウロはテサロニケからベレア、アテネへと旅しました。そして、コリントの街へ移動します。(MAP SCREEN) 使徒の働き18章1節で、初めてパウロに関連してコリントの街の名が触れられています。こう書かれています。**その後、パウロはアテネを去ってコリントに行った。** **そこで、パウロはとても近い友人となり、コリントの教会開拓を手伝い、**彼が去る時、共に旅したユダヤ人の夫婦に会いました。私たちは彼らの事を、使徒の働き18章2節でこう紹介されています。**2. そこで、ポントス生まれでアキラという名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに会った。クラウディウス帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命じたので、最近イタリアから来ていたのである。パウロは二人のところに行き、3. 自分も同業者であったので、その家に住んで一緒に仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。4. パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。**

これらの地域ユダヤ教会堂での福音の提示から、やがて教会が生まれました。しかし、少なくとも当初はユダヤ人の信者ではなく、ほとんど主に異邦人でした。ユダヤ人たちは実際パウロを会堂から締め出しました。そして、使徒の働き18章7節で見るようにそれが実は教会が広がるのを手助けしました。**使徒の働き 18章7~8節** **7. そして、そこを去って、ティティオ・ユストという名の、神を敬う人の家に行った。その家は会堂の隣にあった。8. 会堂司クリスポは、家族全員とともに主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。**

この教会はコリントで結成されました。明らかに旧約聖書を知っておりモーセの律法に従っているユダヤ教の背景を持った信者たちと偶像礼拝と偽の宗教の慣習を持つ異邦人たちの混ざり合った会衆でした。コリントはギリシャにあり、典型的なローマの都市として、さまざまな宗教的しきたりがあり、多くのその時代のローマとギリシャの神々を礼拝していました。とても裕福で誇り高い街であり、パウロの時代にはギリシャ全体でも最大の人口を持っていました。この大きな裕福で罪深く、偶像礼拝的な都市の最初の教会は小さな信者の団体でした。まるで、今日の私たちの多くの教会のようです。学者たちの多くはこの教会が50から150名ほどの会衆であったと推定しています。使徒の働き18章で、また、パウロがそこに最低でも18ヶ月間は滞在していたと学びました。11節は言っています。**そこで、パウロは一年六か月の間腰を据えて、彼らの間で神のことばを教え続けた。地域のユダヤ人が彼を逮捕しようとしたため、パウロはやがてコリントを離れます。その時、執筆していたパウロと一緒にいたかもしれないソステネをユダヤ人が殴りつけています。パウロはプリスキラとアキラを伴ってシリアに船出しました。コリント人への手**

紙 第一 3章6節で、パウロは彼の教会での経験を要約してこう言いました。**私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。**

私たちはもうすでにこの書簡が書かれた時点で、パウロがエフェソに居ると言いました。パウロはおよそ紀元52年にコリントを去りました。彼はこの書簡をその3年後の彼のエフェソでの滞在の終わり頃になる紀元55年に書いていました。パウロが少なくともこれより前に書いた書簡で聖書には組み入れられなかったものがあることはわかっています。

コリント人への手紙 第一 5章9節 私は前の手紙で、淫らな行いをする者たちと付き合わないようにと書きました。

明らかにそれ以前にも書簡があったのです。パウロやどの使徒が書いた書簡が全て聖書に含まれているではありません。神が御言葉としてそれを守ると意図されたものだけが、聖書として私たちが知る聖典に含まれます。コリント人への手紙 1章で、クロエの家の者と特定された人たちが彼にコリントの教会で起こっている問題を報告し、パウロに答える事を望むいくつかの特別な質問を持ってきました。**コリント人への手紙 第一 7章17節 私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。**その彼の訪問がこの書簡を紀元55年に書くよう導いたのでした。かなり多くの背景であったことは認めますが、それがパウロのこの書簡を書く理由とコリントの教会に書いている手紙の内容に導きます。パウロの一つ一つの書簡はそれぞれに取り組む独特なテーマがあります。勿論、繰り返されている考えや教えもそれぞれにあります。第一コリントは特定の教会の問題を正す事に目を向けています。私はこの説教シリーズを理由があってもどうしようもない教会へのメッセージと名づけました。第一コリント2章6節で、パウロはこの教会は軌道から外れており、彼が言うその時代の知恵によって、誤って導かれていると言っているようです。**コリント人への手紙 第一 2章6節 しかし私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語りません。この知恵は、この世の知恵でも、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。**

教会はその周りの世とは異なって機能します。そして、パウロはこの書簡で彼らの教会がキリストよりも周りの人たちにの精神や知恵に似通い始めている分野を対処しようとしています。このイエス・キリストへの献身がパウロを全てにおいて突き動かしました。**第一コリント2章2節** は実際この教会とパウロの交流の根拠を明示しています。**コリント人への手紙 第一 2章2節 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。**

そのような訳で、パウロは神が意図されたように教会が頭であるキリストを褒め称え、神に栄光を帰すために正さなければいけない教会の分野に取り組もうとしています。それでは、どの分野に対処するのでしょうか。最初に、パウロは1-4章で、この教会のひどい有様の一因である不一致に対処します。コリント人への手紙 1章10-11節は 私たちにこの最初の焦点を示しています。**コリント人への手紙 第一 7章10~11節 10. さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。11. 私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。**

そこから、彼はそこから4章まで全体を使ってこの不一致の詳細に取り組みます。パウロが取り組む第二の分野はこの教会の無秩序の原因となっている 教会内での罪の許容です。5-11章でパウロは彼がコリント人への手紙 5章1節で指摘する問題を彼らに突きつけています。**コリント人への手紙 第一 5章7節 現に聞くとよければ、あなたがたの間には淫らな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどの淫らな行いで、父の妻を妻にしている者がいるとのことです。**

最初の二つの問題だけでは大問題となっていなければ、彼は三つ目の分野である不従順について議論しなければなりません。礼拝の重要性を損なわせることが教会の厄介な事態に寄与しています。11章で、聖餐式での彼らの振る舞いを叱責するためにとっても強い言葉を用いています。**コリント人への手紙 第一 11章20~22節 20. しかし、そういうわけで、あなたがたが一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにはなりません。21. というのも、食事のとき、それぞれが我先にと自分の食事をするので、空腹な者もいれば、酔っている者もいるという始末だからです。**

22. あなたがたには、食べたり飲んだりする家がないのですか。それとも、神の教会を軽んじて、貧しい人たちに恥ずかしい思いをさせたいのですか。私はあなたがたにどう言うべきでしょうか。ほめるべきでしょうか。このことでは、ほめるわけにはいきません。

これでさえ、この厄介な状況の終わりではありません。12-14章で、パウロは懸念する4つ目の領域に取り組みます。このとんでもない状況に寄与しているのは、教会がキリストの体の中の誤った賜物を強調してしまっている事です。パウロは彼の主な懸念をまとめています。**コリント人への手紙 第一 12章29~37節 29. 皆が使徒でしょうか。皆が預言者でしょうか。皆が教師でしょうか。すべてが力あるわざで**

しょうか。30. 皆が癒やしの賜物を持っているでしょうか。皆が異言を語るでしょうか。皆がその解き明かしをするでしょうか。31. あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。私は今、はるかにまさる道を示しましょう。

これが聖書の他のどの箇所よりも一番長い愛の神学的表現が見られる13章に導きます。パウロは全ての信者が与えられているこの愛という究極の賜物について話します。最後に15章に来ると、パウロは混乱に導く第5で最後の分野、信者の復活に関する間違っただ教義を説明します。重要な点はコリント人への手紙15章13-14節に記されています。コリント人への手紙 第一 15章 13~14節 13. もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。14. そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。

これら5つの分野の中には、多くのその他の問題もあり、それらを最重要な懸案事項に取り組む間に取り上げていきます。

この書のとても広く多くの背景と内容をカバーしてきましたが、あと最後の一点だけw我慢して聞いてください。引用した聖句から見られるように、これらの件に関して、パウロは教会に対して実際に強い言葉を用いています。この学びを始めていくにあたり、パウロのコリントの教会に対する振る舞いの最後の特徴を理解しなければなりません。私たちは彼の言葉の裏にある心を見なければなりません。彼の心は神の心と神の教会に対する気遣いを反映しているのです。言い換えれば、神の持たれる懸念となぜ、神の視点からは罪であるこれらの汚れた厄介な分野を正す事が重要かを私たちは理解しなければなりません。パウロはなぜそれほどまでに彼らどうしようもないクリスチャンたちに思いを寄せているのでしょうか。彼は彼らを見込みなしとして切り捨てることもできました。しかし、パウロは主を愛し、神の教会、その教会を作り上げる人々を愛しています。弟子訓練は困難です。教会として生きることは簡単ではありません。しかし、パウロはキリストの体を作り上げる人々を大切に思っているのです、彼らと向き合い更正させる困難な仕事も進んで行うのです。コリント人への手紙— 4章 で、パウロが心から大切に思う人たちとの関係をどう見ているかを見ていきます。コリント人への手紙 第一 4章 14~15節 14. 私がこれらのことを書くのは、あなたがたに恥ずかしい思いをさせるためではなく、私の愛する子どもとして諭すためです。15. たとえあなたがたにキリストにある養育係が一万人いても、父親が大勢いるわけではありません。この私が、福音により、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。

パウロの彼のキリストにおける兄弟姉妹への深い愛は彼自身を彼らのキリスト・イエスにおける父親として、そして彼らを彼の愛する子供達として認識させています。この点を考えて締めくくりたいと思います。神は私たちに、この使徒が時として厳しい率直な叱責の書簡を送りさえする地域教会への強い思いを知る事によって、私たちも同様に地域教会への深い愛と憂慮を持つことを望まれているのです。罪人の集まりである教会は混乱したどうしようもない状態に陥ることもあります。今週のE-ニュース・レターでご報告した私たちの米国南部バプテスト連盟のように教会の団体でさえ罪に染まった厄介な状態に陥ることもあります。私たちがこの書の学びを始めるにあたり、まず、自問しなければいけないことはこれです。私たちは、この世が期待するようにはなく、神が望まれるように教会として生き、教会としての使命を果たすために心と思いを注いでいるのでしょうか。聖書が私たちの頭、大牧者、最高の隅石、主である救い主と述べているイエス・キリストを正しく映し出さないものがここYIBCにあるとすればそれを進んで変えようとするほど強い関心と愛を持っているのでしょうか。祈りましょう。

Corinthians overview Sermon

Today we are going to begin a sermon series through the book of First Corinthians. Next week, I will be speaking at CCCY and Pastor Patrick from CCCY will be speaking here. The following week, we will actually be looking specifically at the first few verses. But today, I want to begin this book with an overview of the entire book and some background on this book of the Bible. *Let's pray*, and then take a look at this unique letter that we have preserved in the Word of God.

Let's talk first about the **background** of this book. The author of the book of First Corinthians is the apostle Paul. It is one of the many letters that he wrote to various churches that he had a hand in either starting or in building up. Paul actually wrote most of the books in the New Testament, at least 13 and possibly 14 if he wrote Hebrews, which is not clear. Paul himself describes his background in the book of [Philippians 3:5-6](#) like this, [5circumcised on the eighth day, of the people of Israel, of the tribe of Benjamin, a Hebrew of Hebrews; as to the law, a Pharisee; 6as to zeal, a persecutor of the church; as to righteousness under the law, blameless.](#) Paul was during his early life at least, not just Jewish, but extremely religious and devout in his understanding of keeping the law and following God. The Pharisees were extra careful about making sure that they completely followed the Old Testament laws. Jesus accused them many times of false worship because of their legalistic focus on following manmade rules rather than truly having a real love for God and for glorifying him with their actions and love towards other. That's who Paul was. He was never a disciple of Jesus while Jesus was here on earth. In fact, in the book of Acts, Paul was the one orchestrating the murder of the first Christian martyr, a man named Stephen. Notice where Paul, then going by his Hebrew name, Saul is at in this account in [Acts 7:58-59](#) ⁵⁸ Then they cast him out of the city and stoned him. And the witnesses laid down their garments at the feet of a young man named Saul.⁵⁹ And as they were stoning Stephen, he called out, "Lord Jesus, receive my spirit."

Of course this man who is complicit in the murder of Christians because he thinks he is actually following God in those actions, somehow becomes a man who is writing letters that tell churches how to follow Jesus Christ. That change happens because of an extraordinary event where God turns this self-righteous Jewish religious leader into not only a true follower of God, but an apostle of Jesus. In order to be an apostle you must have had a face to face meeting with Jesus, and that is exactly what Paul had that changed his life as recounted in the book of Acts chapter 9. [Acts 9:3-5](#) says, [3 Now as he went on his way, he approached Damascus, and suddenly a light from heaven shone around him. 4 And falling to the ground, he heard a voice saying to him, "Saul, Saul, why are you persecuting me?" 5 And he said, "Who are you, Lord?" And he said, "I am Jesus, whom you are persecuting.](#) From that meeting, Paul's life is changed, and all the self-righteous actions that previously consumed him, he described as garbage as [Philippians 3](#) continues in verse 8. [Indeed, I count everything as loss because of the surpassing worth of knowing Christ Jesus my Lord. For his sake I have suffered the loss of all things and count them as rubbish, in order that I may gain Christ.](#) So, Paul rightfully refers to himself as an Apostle of Jesus right away at the beginning of First Corinthians when introducing the writer of the letter as was typical of that time period. [1Corinthians 1:1](#) begins, [Paul, called by the will of God to be an apostle of Christ Jesus...](#)

But there are a couple of other items of interest that make up who this writer, the Apostle Paul is. One, although a Jew, a Hebrew, he is also a Roman citizen. In Acts 22, when he is tied up and about to be flogged for preaching the gospel, he asks the soldier in [Acts 22:25](#) "Is it lawful for you to flog a man who is a Roman citizen and uncondemned?". This was a big deal, because he had certain rights, and it stopped the process. The Soldier reported this to the official who ordered the punishment who came and asked Paul in [verse 27](#) "Tell me, are you a Roman citizen?" And he said, "Yes." ²⁸ The tribune answered, "I bought this citizenship for a large sum." Paul said, "But I am a citizen by birth." Paul was a natural born citizen of what is likely the most

powerful civilization to ever rule and at that time controlled all of the known world. This would have put him at the top of society at that time. In addition, as a Pharisee, his education was the best that could be offered within a strict Jewish tradition. In Acts 22:3, he says, "I am a Jew, born in Tarsus in Cilicia, but brought up in this city, educated at the feet of Gamaliel according to the strict manner of the law of our fathers, being zealous for God as all of you are this day." Although Paul was born in a non-Jewish or Gentile city of Tarsus, he was educated in the school of Gamaliel in Jerusalem, a prominent Jewish Rabbi. He could undoubtedly speak Hebrew, Aramaic, Greek and most likely at least some Latin as a Roman Citizen. His written Greek in the New Testament is very sophisticated and shows a high level of education, compared to someone like the apostle John or the Apostle Peter who did not have that same educational background and started as fisherman.

In addition to Paul as the author of this letter, there is another man listed in the first verse of First Corinthians 1. Paul, called by the will of God to be an apostle of Christ Jesus, and our brother Sosthenes... We don't know hardly anything about Sosthenes. He could have been Paul's amanuensis, someone who wrote down what he dictated. Or he could have just been a traveling companion of Paul's. He is possibly the same Sosthenes written about in Acts 18:17 as one who was beaten by the crowds in the city of Corinth who were disappointed that the local ruler would not imprison Paul. Acts 18:17 says, And they all seized Sosthenes, the ruler of the synagogue, and beat him in front of the tribunal. Sosthenes could have left Corinth and traveled with Paul and since he was from there, they would have known him. So, this letter is from Paul who sends greetings from Sosthenes as well.

I want to briefly look at the circumstances for Paul writing this letter. Paul is writing to the Corinthian church at this time from the city of Ephesus. He has already been in Ephesus planting that church there for approximately two years, when he received a report of problems in this church at Corinth. This caused him great concern because of his relationship with this church. Paul originally established this church during his second missionary journey. Paul has traveled from Thessalonica to Berea to Athens and then moves on to the city of Corinth. (MAP SCREEN) Acts 18:1 is where we see this first mention of Corinth in relationship Paul. It says, After this Paul left Athens and went to Corinth. While there, he met a Jewish couple who became very close friends and helped found the church in Corinth as well as travel with Paul when he left. We are introduced to them in Acts 18 as verse 2 continues. And he found a Jew named Aquila, a native of Pontus, recently come from Italy with his wife Priscilla, because Claudius had commanded all the Jews to leave Rome. And he went to see them, ³and because he was of the same trade he stayed with them and worked, for they were tentmakers by trade. ⁴And he reasoned in the synagogue every Sabbath, and tried to persuade Jews and Greeks. From these gospel presentations in the local Jewish synagogue, eventually a church was born. But initially at least was made up of primarily gentile and not Jewish believers. The Jews actually kicked Paul out of the synagogue, and then we read in verse 7 of Acts 18 that this actually helped start the church. ⁷And he left there and went to the house of a man named Titius Justus, a worshiper of God. His house was next door to the synagogue. ⁸Crispus, the ruler of the synagogue, believed in the Lord, together with his entire household. And many of the Corinthians hearing Paul believed and were baptized. So this church was formed in Corinth, and it was a mixed congregation of Jewish background believers who obviously knew the Old Testament Scriptures and followed the law of Moses and Gentile believers who came from a tradition of idolatry and false religion.

Corinth was located in Greece, and as a typical Roman city had a variety of religious traditions which worshipped the many Roman and Greek gods of the time. It was a very wealthy and proud city and at the time of Paul had the largest population in the area in all of Greece. So, this first church that was established there was a small group of believers in this big, wealthy, sinful, idolatrous city. Sort of sounds many of our churches today. Most scholars estimate that the size

of the church could have been as small as 50 or as large as 150 people. Also in Acts 18, we learn that Paul stayed there at least 18 months. Verse 11 says, **11 And he stayed a year and six months, teaching the word of God among them.** He eventually leaves Corinth when the local Jews try to have him arrested and that is when they beat Sosthenes who may be with Paul while he writing. He takes Priscilla and Aquila with him and sails for Syria. In **First Corinthians 3:6**, Paul summarizes his experience with this church by saying, **I planted, Apollos watered, but God gave the growth.**

We've already said that at the point of writing this letter, Paul is in Ephesus. Paul had left Corinth in roughly 52AD and he is writing this about three years later in 55AD at the end of his time in Ephesus. We do know he had written at least one previous letter that did not make into the Bible. **1 Corinthians 5:9** says, **9 I wrote to you in my letter not to associate with sexually immoral people—**, so clearly there was an earlier letter. Not every letter that Paul or any apostle wrote is in the Bible, only what God intended to be preserved as His Word made it into the canon of scripture that we know as the Bible. We know from 1 Corinthians 1 that it was particular individuals called Chloe's people that reported the problems happening in the church at Corinth to him and apparently brought some specific questions that the church asked him to answer. **1 Corinthians 1:11** says, **11 For it has been reported to me by Chloe's people that there is quarreling among you, my brothers.** It was that visit that likely led to the writing of this letter in 55AD.

That was a lot of background I know, but it leads us to Paul's reason for writing this letter and the **content** of this letter he is writing to the church in Corinth. Each of Paul's letters is unique in the themes they address although there are of course repeated thoughts and teaching in each one. First Corinthians is focused specifically on correcting problems in that particular church. I have called this series "Message to a Messy Church" for a reason. We see in 1 Corinthians 2:6 that Paul seems to say that this church has gotten off track, and been misled by what he calls the "wisdom of this age." **1 Corinthians 2:6** says, **6 Yet among the mature we do impart wisdom, although it is not a wisdom of this age or of the rulers of this age, who are doomed to pass away.** The church functions differently than the world around it. And Paul is trying in this letter to address areas where their church had begun to resemble the spirit or wisdom of those around them rather than Christ. It was this commitment to Jesus Christ that drove everything for Paul. **1 Corinthians 2:2** really defines the basis for Paul's interactions with this church. **2 For I decided to know nothing among you except Jesus Christ and him crucified.** As such, he will try to address areas in the church that need to be fixed in order to honor Christ as the head of the church and glorify God as God intends the church to do.

So what are the areas that he will address? **The first area** that Paul address is the disunity that contributes to the mess in this church in chapters 1-4. **1 Corinthians 1:10-11** introduces us to this first focus. **10 I appeal to you, brothers, by the name of our Lord Jesus Christ, that all of you agree, and that there be no divisions among you, but that you be united in the same mind and the same judgment. 11 For it has been reported to me by Chloe's people that there is quarreling among you, my brothers.** From there he spends all the way through chapter 4 addressing the specifics of this disunity. **The Second Area** that Paul address is the tolerance of sin within the church that contributes to the messiness in this church. From Chapter 5-11, he is confronting them on the problem he points out in **1 Corinthians 5:1**, **5 It is actually reported that there is sexual immorality among you, and of a kind that is not tolerated even among pagans, for a man has his father's wife.** If those first two issues were not creating a big enough problem, he then must discuss with them **a third area** of disobedience. Minimizing meaningful worship contributing to the mess in the church. In Chapter 11, he uses some very strong words in reprimanding them for their behavior with the Lord's Supper. **1 Corinthians 11:20-22** says, **When you come together, it is not the Lord's supper that you eat. 21 For in eating, each one goes ahead with his own meal. One goes hungry, another gets drunk. 22 What! Do you not have houses to eat and drink in? Or do you despise the church of God and humiliate those who have**

nothing? What shall I say to you? Shall I commend you in this? No, I will not. Even that is not the end of the mess. From chapters 12-14, he addresses *a fourth area* of concern. They were emphasizing the wrong gifts within the body of Christ which was contributing to the mess. He sums up his primary concerns **1 Corinthians 12:29-31** **29 Are all apostles? Are all prophets? Are all teachers? Do all work miracles? 30 Do all possess gifts of healing? Do all speak with tongues? Do all interpret? 31 But earnestly desire the higher gifts. And I will show you a still more excellent way.** This leads into chapter 13 and the longest theological treatment of love found anywhere in Scripture, as Paul discusses this ultimate gift that all believers have. Finally as he comes to chapter 15, he discusses *a fifth and final area* that was contributing to the mess, Incorrect Doctrine, which centered on the resurrection of believers. His key point is made in **1 Corinthians 15:13-14** **says, But if there is no resurrection of the dead, then not even Christ has been raised. 14 And if Christ has not been raised, then our preaching is in vain and your faith is in vain.** Within those 5 areas, there are a lot of other issues that we will discuss while dealing with those primary concerns.

I know that this has been a lot to cover in the background and content of this book, but bear with me for one final point. Because as you could see in the verses that we already quoted, Paul used some really strong language in trying to deal with this church. As we begin this study, we have to understand one final characteristic of Paul's dealings with the Corinthian church. **We have to see his heart behind these words**, because they reflect God's heart and God's concern for his church. In other words, we see the concerns that God has and why correcting these areas of messiness, really sin in His sight, matters. Why does Paul care so deeply about confronting these messy Christians? He could have just written them off as a lost cause. But Paul loves the Lord and he loves God's church, therefore he love the people who make up the church. Discipleship is hard; being the church is hard. But Paul is willing to do the hard work of confrontation and correction precisely because he cares about the people who make up the Body of Christ. In Chapter 4 of 1 Corinthians, we are going to see the deep care he has for these people in how he views his relationship to them. **1 Corinthians 4:14-15** **says, ¹⁴I do not write these things to make you ashamed, but to admonish you as my beloved children. ¹⁵For though you have countless guides in Christ, you do not have many fathers. For I became your father in Christ Jesus through the gospel.** We see the deep love for his brothers and sisters in Christ in how he sees himself as their "father in Christ Jesus", and them as his "beloved children." I want to close with this point. If God wanted us to see this concern by the Apostle for the local church even in what will sometimes be a stern and direct letter of rebuke, then we should have that same care and concern about the local church. We know that church can be messy because it is made up of sinful people. We have seen evidence in our own convention as I pointed out in this week's newsletter that groups of churches can be messy and sinful. So, the question we have to ask ourselves as we begin to look at this book is this. Do we care about doing church, about being the church in the way that God wants, not the way the world expects the church to be? Do we care enough that we are willing to change anything here at YIBC that does not properly reflect Jesus Christ who the Bible describes as our Head, our Great Shepherd, our Chief cornerstone, our Lord and our Savior? Let's pray.